

歴史学習の問題解決と地図帳の活用

世田谷区立塚戸小学校 中楯 浩太

1 はじめに

6年生の歴史学習では、人物の働きや代表的な文化遺産を中心とした問題解決的な学習の展開が求められています。歴史学習の追究活動では、時間的な流れや見通しをもたせるのに「歴史年表」の活用が欠かせません。

では、歴史学習で空間的な認識を獲得させるためには、どのような手だてが効果的なのでしょうか？それは地図帳の活用だといえます。地図は、位置関係の把握はもちろんのこと、土地の広がりやつながりをつかませるのに大変効果的だからです。

ここでは、「江戸の町人文化」の単元を取り上げ、問題解決的な学習のなかで、地図帳の効果的な活用の仕方を考えてみました。

2 世界に広がる日本の文化！

学習の導入で“ある映像”を流します。何かを鑑賞して会場中が感動に包まれている外国の人々のようすです。子どもたちは、「観客がすごく興奮していたよ！」「何かとても人気があるものなんじゃないかな？」などと予想を出し合います。

その映像は、歌舞伎の海外公演のようす。さっそく『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』（以下、地図帳）で、海外公演の行われたロンドンやパリの場所を探させます。

「日本の文化って、こんなに遠い海外でも人気があるんだね！」と驚きの声があがります。

江戸時代に生まれた歌舞伎が時間的に現代



図1 『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』 p.84~85

までつながり、さらには空間的に海外にまで広がっていることに子どもたちは感動していました。その歌舞伎を室町文化の「能」と比較して調べさせることで、文化の担い手が將軍や武士などから町人などの庶民に広がっていったことをつかみました。

次の時間には、世界的に有名なヨーロッパの画家ゴッホの模写とそのもとになった絵を比較します。ここでゴッホの活躍したヨーロッパの位置を確認させます。「あのゴッホが真似したくなるほどの絵を描いた、このもとの絵は一体だれが描いたんだろう？」という疑問につながり、なんとか調べようとする姿もみられます。もとの絵は浮世絵といい、江戸時代に歌川広重が描いたものであることをつかませた後、歌舞伎と同様に室町文化の「水墨画」と比較させました。

浮世絵も歌舞伎と同様に町人たちが好んでいたという共通点をつかむと、子どもたちから「どうして江戸時代の文化は、武士から町人たちに広がっていったの？」という疑問が生まれます。そこで、学級全体で追究する学習問題が設定されました。

3 歌舞伎や浮世絵はどのようにして町人に広がっていったの？

さて、学習問題は設定されたものの、この問題をいったいどのように解決していけばいいのでしょうか？解決の見通しをもたせるため、予想を出し合います。その中で、歌舞伎や浮

世絵の内容や魅力」「江戸の文化にかかわった人物の業績」「江戸時代の社会のようす」など、調べる内容もだんだんと絞られていきます。

予想を出し合うなかで、子どもたちは根本的なことに気づき始めました。

4 町人ってどんな人？

「そもそも、歌舞伎や浮世絵などの文化を好んだ町人っていったいどんな人たちなんだろう？」という疑問です。

前小単元までの江戸時代の学習で、身分制度の確立をつかむ際、町人についてふれてはいます。しかし、「当時の人口の6%」であるとか「職人や商人のこと」といった断片的な知識しか身につけていません。

そこで、地図帳を活用します。



図2 『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』 p.40

上の地図は「江戸」の街のつくりを表したものです。子どもたちに「町人たちは江戸の街のどこに住んでいたんだろう？」と問い、地図を読み取らせていくと、「町人地って、

町人たちが住んでいたところなんじゃないですか？」とか「町人地の赤い場所が江戸城の東側にかたまっている！」と新たな発見が生まれます。

また、「武士の屋敷」は江戸城を取り囲むように広がっていることや「寺・神社」が江戸城の北側に多いことに気づき、当時の人々は身分に応じて住み分けがされていたことを視覚的にとらえることができたのです。

こうして、江戸の文化を支えた町人たちの姿がよりはっきりと認識できるようになったのです。

5 問題解決の一つの手がかり

さて、学習問題を解決する一つの手がかりとなる「江戸時代の社会のようす」として、「五街道の整備」や「旅の流行」というキーワードが浮かび上がってきます。

ここでも地図帳が効果的です。教科書や資料と関連させて調べていくと、日本橋を起点として五街道が全国に広がっているようすがはっきりと読み取れるためです。五街道の整備によって、人や物、情報の行き来がさかんになります。江戸の庶民だけでなく、全国各地に江戸の文化が広がっていったことをつかんでいきました。

6 おわりに

最後に、歌舞伎や浮世絵などの文化が町人に広がっていった理由を総合して考えさせ、小論文にまとめさせました。文章資料と地図帳とを効果的に活用することで「人物の業績」「江戸文化の魅力」「町人のくらしや社会のようす」など多様な要素をつなぎ合わせながら多面的にとらえ、問題を解決する姿がみられました。

*掲載した地図は現在4・5年生が使用している版で示しています。